

週報 No.2313号

## 本日の例会（第2314回） 平成29年12月12日(火)

### 予定行事



★卓話 テーマ「合同労組体験記」

卓話者：増田 久弥 会員

略歴：入会年月日：1990年7月3日	生年月日：1948年12月17日
職業：株式会社 代表取締役社長	職業分類：董物線香製造
ロータリーでの活動歴	
1991～'92年度 社会奉仕委員会副委員長	2002年度 第34代 幹事
2005～'07年度 社会奉仕委員会委員長	2009年度 R財団委員会委員長
2010年度 クラブ奉仕委員長（副会長）	
2011年度 会長エレクト	2012年度 第44代 会長
2013～'15年度 R財団委員会委員長	2016年度 S A A
2017年度 職業奉仕委員会副委員長	

趣味：映画

### 父の報告



橋本 晃芳 元会員

西北RC会報の方より「父の報告」の日の話を文にしてほしいとご依頼がありまして、僭越乍ら、拙文にて書きおこします。

父、橋本晃芳（大正9年5月15日生、97歳）は、昭和61年に当俱楽部第18代の会長を奉仕させて頂き、その後も「出席はロータリアンの責任」と皆勤を励んで、このクラブを家族のように大切に愛して生きて参りました。

年末の家族会は、お互いに家族同士、温かく友情を交わす、特別に大切な日で在ったようで、毎年、この時をとっても楽しみしていました。

学生で在りました私自身も、40年余の長い年月を当会員家族としてみなさまと毎年お目に掛かり、いつも心優しく温かいお交わりをたくさんに頂きました。懐かしい方々や、ご家族おひとりおひとりを次々と思い出します。

父の現役時代は、クラブ関西や関西工業会に於いても、深いお交わりを頂戴しておりまして、RCでは東京や他都市の時代も合わせて60余年に及ぶロータリ一生活でした。

中でも一番は、晩年の十余年の間、最期の前日まで、西北RCの皆様とは、長年のお仲間として一緒に過ごして居られました事、なにをおいても、とてもしあわせで在ったと心から感謝しています。

(裏面につづく)

次回例会のお知らせ [第2315回・平成29年12月19日(火)]

★2017年度忘年家族会

受付開始17:15～・例会 18:00～18:10・忘年家族会 18:10～20:50

★会場 ヒルトン大阪 5F 桜園華の間

★12月26日(火)、1月2日(火)は休会です。

年頭挨拶会は1月9日(火) 18:00から開催されます。

前回例会（第2313回・12月5日（火））の報告

- ・来客紹介 1名  
(2660地区内 1名・地区外 0名・ゲスト 0名)
- ・出席報告

	10月31日	11月14日	11月28日	12月5日
会員総数	43名	43名	43名	43名
出席免除会員数	14名	14名	14名	14名
欠席会員数 (内、出席免除会員数)	13名 (4名)	10名 (5名)	11名 (6名)	9名 (5名)
出席率	76.92%	86.84%	86.49%	89.47%
修正出席率 (メキャップ数)	84.62% (3名)	81.82% (3名)	—	—

・ラッキーくじ

賞品名 『商品券』  
賞品提供者 富島 俊治 会員  
当選者 田中 潤治 会員  
隅防 武司 会員

参加者数 21名

・卓話

テーマ「おもしろ川柳」  
卓話者：瀬田川昭俊 会員

2017年度 地区大会での表彰



「End Polio Now」感謝状



100%「ロータリー財団寄附」バナー

会員名	ニコニコ事由
藤井 宏一	=誕生日
藤井 進次	=誕生日
藤岡 靖夫	=誕生日
増田 久弥	=誕生日
河合 秀行	=誕生日
小山 登	=ラッキーカード当選
高士 誠司	=ラッキーカード当選
小山 登	=月初にあたり。
古市 仁	=先々週の移動例会は良い親睦例会でしたね。
尾下 千明	=寒いですね！
勝亦 良彰	=冬一番。今日は寒いですね。
竹井三千彦	=元号が変るようですが、そこで一句『新元号 希望だけは ご勘弁』
阿江 秀典	=本日、うっかり忘れ物をして来ました。
井上 芳郎	=本日の年次総会と理事会、よろしくお願ひいたします。
柴崎 秀樹	=大阪市内配達の2トントラックのドライバーを探しています。どなたか、いい方がおられたらご紹介ください。
小嶋 敦	=SAAに声をかけられて。
隅防 嘉之	=SAAに声をかけられて。
三宅 有	=SAAに声をかけられて。
妙中 茂樹	=SAAに声をかけられて。
隅防 武司	=SAAに声をかけられて。
弓田 浩司	=SAAに声をかけられて。
菅原 正明	=SAAに声をかけられて。
寺見 隆	=早退。申し訳ございません。
瀬田川昭俊	=卓話当番
阿江 秀典	=皆様、いつもニコニコありがとうございます。

(表面のつづき)

その父に、歴代会長懇親会で提案したい事が三つ在ったようです。

大正ひと桁生まれの父にとって、プレゼントを選ぶという行為は、時代的にも慣れておらず、いつも大層苦労しておりました。「贈り物を選ぶ」という事が、受け取る方の気持ちを良く考えなければならないからでした。

ラッキー賞は「奉仕精神の基として、相手のために考える行為」、「幸いにも受けた側には考えて選んで来た方の思いを感謝する機会」として例会の中で一番身近に在るという事。

クラブ内での、金券をお金でやり取りする例を残念に思い、心配しておりました。

もう一つは、ロータリアンにとっての例会への出席（率）の責任。

その為、家族会であっても、先はすべての会員にとっての出席が叶う例会で在るべく、役員の方々の基本的な責任として、皆様の「”公儀”として在られる事」を望む。

そして、「常に ほんもので在れ」と 希っている。と。

西北RCのみなさま、半世紀近くの日々の間、ロータリーの友として、人生の家族として、共に歩んでくださり、心よりうれしく思います。

どうか、佳き日々を健やかに歩まれますように。

2017年12月

橋本晃芳、長女 園子